

# 南洋からの 引揚げ展

玉砕の島で生き抜いた移民たちの記録

令和元年7月2日(火) - 9月29日(日)

開館時間 / 9:30 ~ 17:30 (入館は17:00まで)

休館日 / 7月8日、8月25日、9月2・9・17・24日

Mt.Mappi

Banzai Cliff

Saipan Island

Camp Susupe

南の島は、逃げ場のない戦場になった。

夢を求め、多くの日本国民が移住した

サイパンやパラオなどの南洋群島。

しかし、平穏な島は激戦の舞台へ。

ジャングルを逃げ惑い

戦火をくぐり、

人々は夢やぶれて

引き揚げていった。

平和祈念展示資料館(総務省委託)

新宿住友ビル33階 東京都新宿区西新宿2-6-1 Tel:03-5323-8709

<https://www.heiwakinen.go.jp>

入館  
無料



# 南洋からの 引揚げ展

## 玉碎の島で生き抜いた移民たちの記録

第一次世界大戦後、日本はサイパン島やパラオ諸島をはじめとする南洋群島の委任統治権を認められ、何万人もの人々が移民しました。しかし、太平洋戦争の後半になると、それらの島々はアメリカ軍の総攻撃を受け、多くの住民が激しい地上戦に巻き込まれました。

生き残った人々は、アメリカ軍の収容所でたくましく暮らし、やがて故郷へと引き揚げました。本企画展では、込宮まつか氏が収集した収容所の写真を中心に、南洋群島からの引揚げについて紹介します。



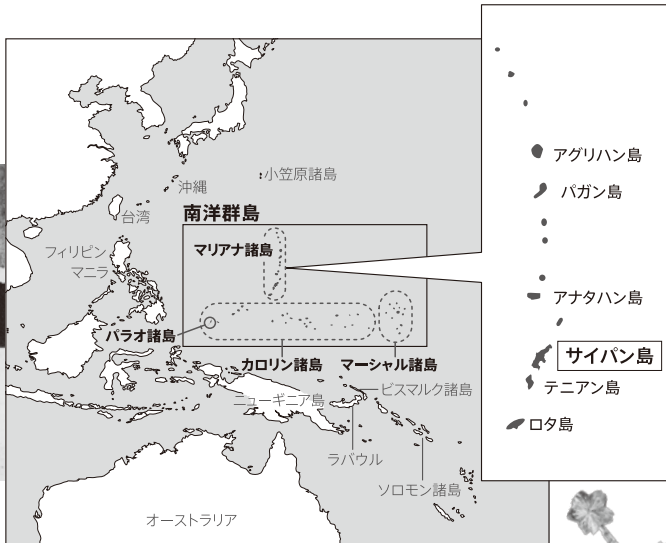
サイパン高女での集合写真



サイパン郵便局(込宮氏の職場)



廃墟と化したサイパン郵便局



- アグリハン島
- パガン島
- アナタハン島
- サイパン島
- テニアン島
- ロタ島



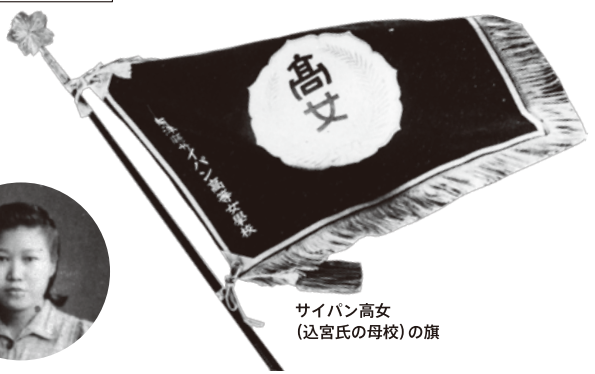
収容所の子どもたち



サイパン島内の米兵と住民

### [込宮(旧姓: 柏木)まつか氏プロフィール]

昭和3(1928)年、4歳の時に八丈島からサイパン島へ移民。  
昭和19(1944)年6月、郵便局員として在職中、  
戦闘に巻き込まれる。その後アメリカ軍に保護され、  
約1年半の収容所生活を送る。  
帰国後、南洋群島協会(南洋群島引揚げ者の団体)に  
所属し、南洋との交流や戦没者の慰霊に努める。  
平成3(1991)年没。



サイパン高女(込宮氏の母校)の旗

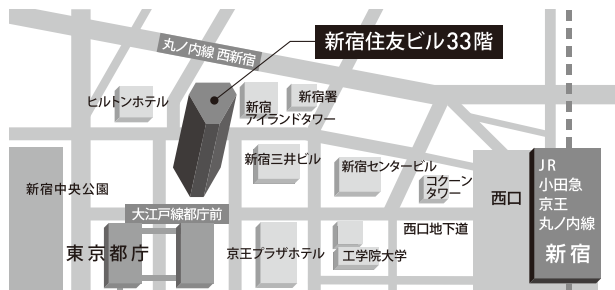
### 企画展関連イベント (参加無料・予約不要)

#### ■ ギャラリートーク

学芸員による展示解説を行います。企画展の見どころや、  
展示資料のエピソードをご紹介します。

日時：7月7日(日)、8月4日(日)、24日(土)、  
9月29日(日) いずれも13:00~(約40分)

※7月13日(土)から8月31日(土)まで、  
夏休みイベントを開催します。



- 都営大江戸線(都庁前)駅より徒歩約3分
- 東京メトロ丸ノ内線(西新宿)駅より徒歩約7分
- JR線、小田急線、京王線(新宿)駅西口より徒歩約10分